

# 大学健康支援センターのメンタルヘルス相談に期待されること

ーアンケート自由記載解析よりー

田中生雅<sup>1)</sup>、田中優司<sup>1)</sup>

【要旨】 学生のメンタルヘルス状況と身近な相談環境の在り様を把握する為、学生にアンケート調査を行った。そのうち、学生がメンタルヘルス相談に何を期待するかに関する自由記載の解析結果を報告する。平成31年3、4月に行った本学学生定期健康診断に参加した学生、大学院生3067名のうち、アンケート調査の主旨について文書内で説明の上同意の得られた者を対象とし、138名が「健康支援センターのメンタルヘルス相談に期待したいことを自由にご記載下さい」の質問について記載し、記述コメントについて、KHcoder (Ver.2.00) を用いて計量テキスト分析 (テキスト・マイニング) を行った。形態素解析には意味を持つ語句を抽出し、共起ネットワークによる語句の関連性分析、および抽出語・対応分析での検討を行った。分析対象とした回答は138件であり、合計163文であった。共起ネットワークでは、48の語句が62の結びつきで表された。記載内容は、6種類的话题 (①悩む人を助ける、②周知について、③今後の対応方針、④センターの相談方法、⑤健康状態と不安、⑥大学生生活上の具体的悩み) から構成されていた。抽出語・対応分析では、男性は抽象的語句を、女性は具体的な例や対応に関する語句を使用する傾向が明らかになった。今回の検討では、回答文からみた、健康支援センターの活動に求められるキーワード、課題点を見出すことができた。

キーワード：大学生、学生支援、メンタルヘルス、計量テキスト分析

## はじめに

国立大学には保健管理施設が設置されており、活動は担当職の専門性や大学より依頼されている業務で異なり、各大学ごとに特色がある。愛知教育大学は学生数4160名 (令和元年度) ほどの規模の中規模で医療系学部を持たない教員養成系大学である。現在保健管理施設である健康支援センターの職員は、常勤教員 (内科医師、精神科医師各1名)、非常勤臨床心理士 (0.5日×週3日)、常勤保健師1名、非常勤看護師 (1名、週30時間) である。昭和46年の保健管理センター開設からこれまで、様々な経緯で改組や名称変更、教職員の定員の変遷があった。施設の形態に沿った効率の良い支援を提供する為、学生のニーズを把握することには大きな意味があり、これまでもアンケートにて調査し、報告してきた<sup>1)</sup>。今回、学生の定期健康診断時に、メンタルヘルス状況と身近な相談環境の

在り様を把握する為、アンケート調査を行った。

調査内容のうち、抑うつ不安尺度調査 (K6)、ストレスの有無、身近な相談環境への相談しやすさおよび相談状況等の項目の分析結果については、すでに報告した<sup>2)</sup>。本稿では同調査のうち、メンタルヘルス相談に何を期待するかに関する自由記載コメントについての計量テキスト分析の解析結果を報告する。

## 対象と方法

平成31年3～4月に行った愛知教育大学学生定期健康診断に参加した2～4年次学生、大学院生3067名のうち、アンケート調査の主旨について文書内で説明し、同意の得られた者を対象とし「メンタルヘルス状況と身近な相談環境の在り様を把握する為」のアンケート調査を行った。138名の学生 (男性62名、女性76名) が「健康支援センターのメンタルヘルス相談に期待したいことを自由にご記載下さい」の質問について記載し、回答記述コメント全文についてKHcoder (Ver.2.00) を用い

令和2年12月15日受理

<sup>1)</sup> 愛知教育大学 健康支援センター

て、計量テキスト分析を行った。形態素解析には、意味を持つ語句を抽出した。固有名詞として把握すべき語句を強制抽出対象とした。共起ネットワークによる語句の関連性分析、階層的クラスター分析および抽出語・対応分析での検討を行った。

尚、本研究は愛知教育大学研究倫理審査委員会の承認（AUE20180301HUM）を経て、実施した。

## 結果

### 1) 形態素解析

アンケートの回答は1727名（回収率56.3%）であった。今回分析対象とした回答は138件であり、

合計163文であった。総抽出語数は1,609語（分析に使用する語数は764語）、異なり語数は446語（分析に使用する語数は335語）が抽出された。表1に品詞別抽出例と出現回数（2回以上）を示す。

### 2) 共起ネットワーク

共起ネットワークでは、48の語句が62の結びつきで表された（図1）。集計では6種類的话题①悩む人を助ける、②周知について、③今後の対応方針、④センターの相談方法、⑤健康状態と不安、⑥大学生活上の具体的悩みから構成され、「悩む人（健康状態を含む）を助ける部署としての期待」「具体的な対応の相談に対する期待」「相談方法等

表1 形態素解析

名詞		サ変名詞		形容動詞		副詞可能		タグ		動詞	
大学	5	相談	26	気軽	7	現在	4	メンタルへ	5	思う	13
学生	4	周知	4	健康	3	何時	2			知る	8
悩み	4	対応	4	困難	2	今	2			教える	4
ターゲット	3	利用	4	重要	2	今後	2			考える	4
環境	3	お願い	3	前向き	2	時間	2			悩む	4
機会	3	メール	3	必要	2	毎年	2			感じる	3
教員	3	期待	3	不安	2					言う	3
自分	3	活動	2	不幸	2					見る	2
窓口	3	支援	2							向き合う	2
内容	3	自殺	2							行く	2
方法	3	生活	2							行ける	2
ストレス	2	理解	2							止まる	2
ゼミ	2									受ける	2
教師	2									出る	2
教授	2									助ける	2
障害	2									設ける	2
場所	2									頂ける	2
職業	2									来る	2
生徒	2										
匿名	2										
病院	2										

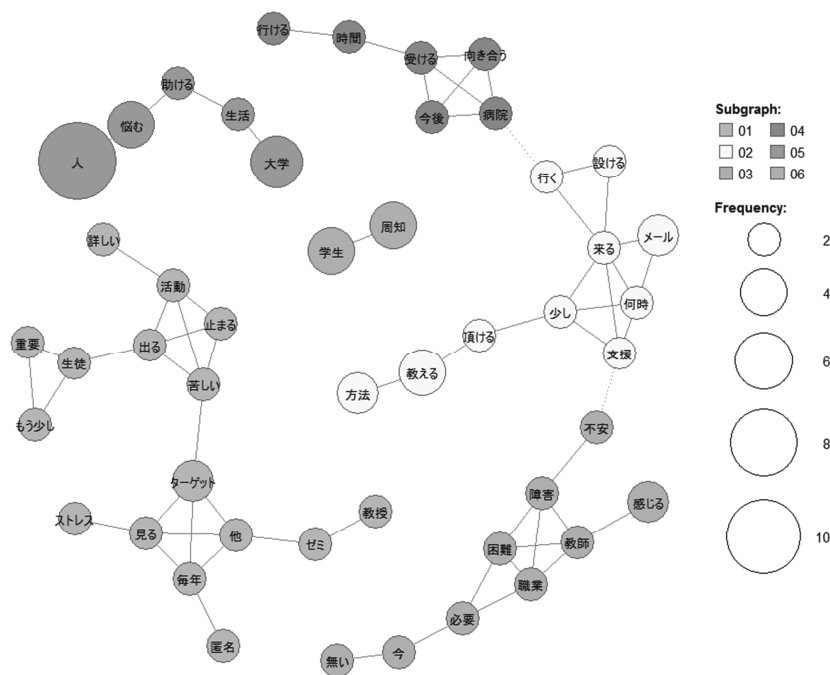


図1 共起ネットワーク（サブグラフ）

の周知不足」と解釈がされた（図2）。中心性は、他の語句との関係が深く、文脈の意味を考えるにあたり重要な意味を持つ語句としての度合いを示すものである。判定にもちいている中心性は、中心性の高さを語句の通過する多さで判断している。今回の検討では、「来る」「支援」「不安」「障害」の中心性が高かった（図3）。

階層的クラスター分類は、デンドログラムによ

り、全ての語句を対象に、より距離の近い語句を示している。今回（最小出現数3回）の分析では、次の6つのクラスターに帰結した。それぞれのクラスターを解釈し、「第1クラスター 解決法を示す」「第2クラスター 悩む人のための窓口」「第3クラスター 学生への周知」「第4クラスター 気軽な相談を希望」「第5クラスター 自身の利用について」「第6クラスター 具体的相談と対応」と

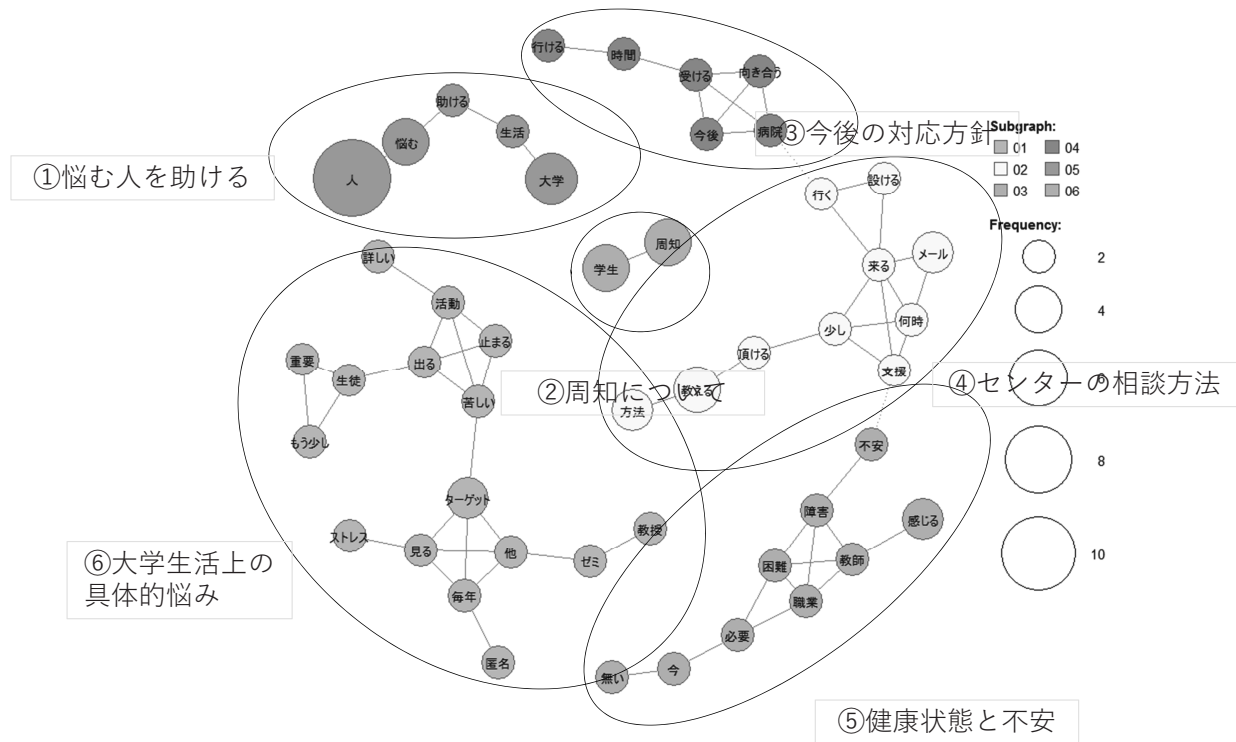


図2 共起ネットワーク

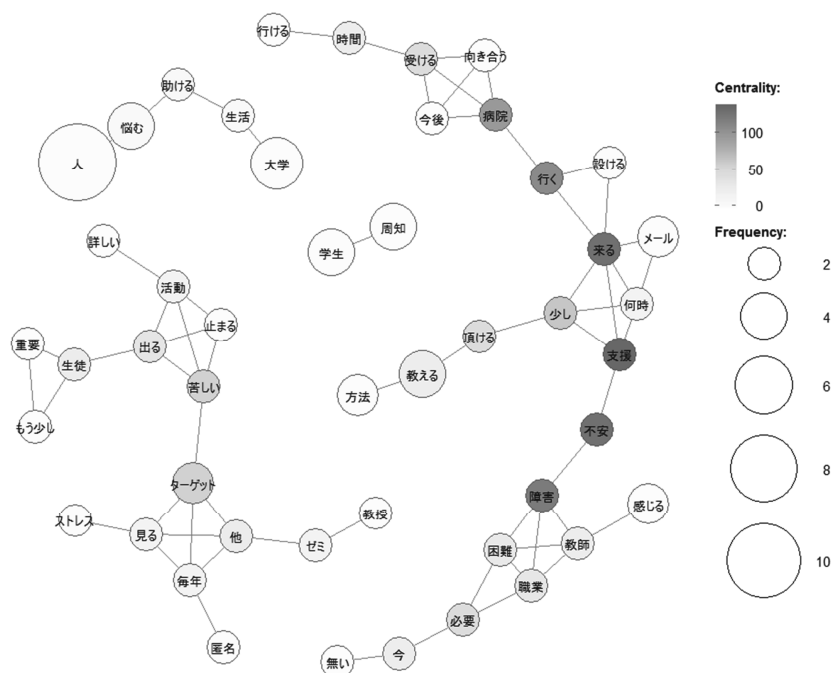


図3 共起ネットワーク（中心性）

名付けた（図4）。

共起ネットワークおよび階層的クラスター分類での検討では抽出した課題において、重なるところの多い結果となった。

また、抽出語・対応分析では男女間の特徴をみたところ、結果では原点近くに布置された、「窓口」「機会」「相談」「気軽」などのコード、「気軽に相談できる窓口であってほしい」と解釈されるコードでは男女とも相違は認められなかった。男性は「健康」「環境」「不安」「障害」「活動」等の抽象的語句を、女性は「匿名」「学生」「利用」「悩み」「病院」等の具体的な例や対応に関する語句を使用する傾向があった。数行程度の自由記載欄であったが、女性の回答では具体的相談や事例、密告のような記載もみられ、その傾向の反映と解釈した（図5）。

## 考察

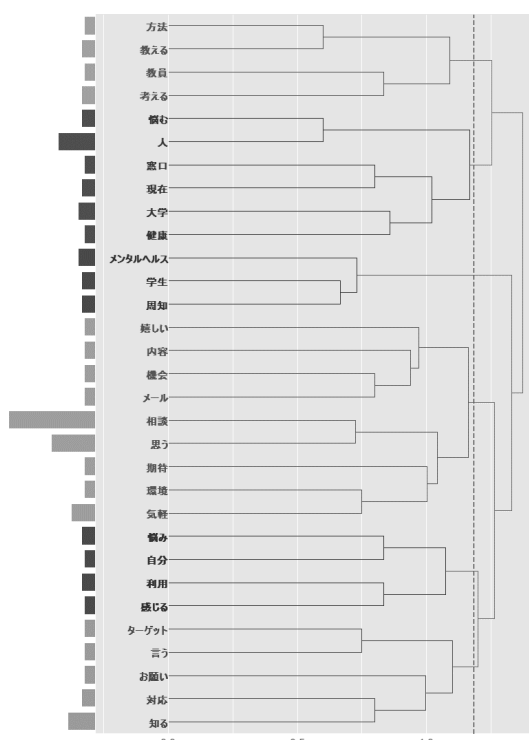
本調査ではメンタルヘルス相談に何を期待するかに関する自由記載コメントの解析方法として計量テキスト分析（テキスト・マイニング）を用いた。同解析は文字データをコーディングによって数値化し、計量的分析手法を適用して、構造化されていないテキストデータから「目的に応じて情報や知識を掘り出す方法と技術」である<sup>3)</sup>。例数がまとまった量で回収できるときは、解析者が人的に判断するより恣意的な解釈を除く分析に近づ

けることができると考える。

これまでの研究について、“大学”“保健”“テキスト分析”をキーワードに医中誌Webにて検索すると2006年から2020年までの67本の論文が検出された。しかしその内には大学の保健管理施設やメンタルヘルス相談窓口サービスに関連する研究や検討は見られなかった。

今回の研究では、クラスター分析結果から自由記載の内容が「悩む人（健康状態を含む）を助ける部署としての期待」「具体的な相談と対応に対する期待」「相談方法等の周知不足」「気軽に相談できる窓口であってほしい」という話題と解釈できた。これらの話題は、大学の保健管理施設に求められる通常の活動としての想定内にまとまっていた。回答全体から受け取るべき計量的で信頼のおける情報、概観としてつかむことができると考えた。

多量の文字データから分析で「匿名」「ハラスメント」等の語句が抽出された。アンケートへの記載に具体的なトラブル事例があった。すでに、このアンケート自体が大学保健管理部門へのつながりとみなすことができ、学生の困りごと、潜在的なニーズ、必要される項目を捉えることができるかもしれない。単語から焦点を絞り、原文データに立ち戻り個別に吟味すると、具体的な相談や他人の困りごとの密告のような記載が散見される。解析結果を生かして各回答者が文中に込めた「意味」を見落とさないよう、分析では原文を必ず振り返ることも重要であると感じた。本調査で



第1クラスター 解決法を示す

第2クラスター 悩む人のための窓口

第3クラスター 学生への周知

第4クラスター 気軽な相談を希望

第5クラスター 自身の利用について

第6クラスター 具体的相談と対応

図4 階層的クラスター分析



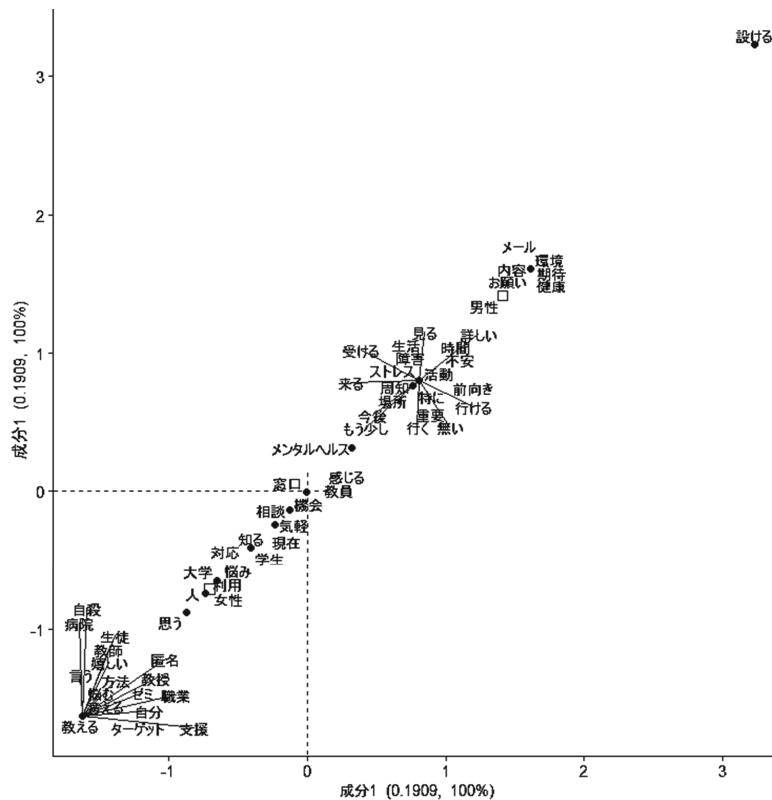


図5 抽出語対応分析

は特に女性の回答で具体的な事例や密告を思わせる単語を使用する特異性がみられた。

よって、「健康支援センターのメンタルヘルス相談に何を期待するか」の自由記載を検討した本研究からは以下の2つの点が指摘される。

- ① 計量テキスト分析のクラスター分析からはすでに通常の活動に想定内である期待が持たれていること
- ② テキストデータを詳細に検討すると、具体的なトラブル事例の記載がみられること。

これはアンケートが保健管理部門へのつながりと捉えると、学生が困っていること、潜在的ニーズ、必要とされる項目を捉える調査となりえるといえることができる。

上記の、②の事項については、「窓口がどこにあるか」「どのような対応をして解決策を見出していくのか」「どのように利用したらよいか」「これらをどのように学生に周知していくか」などの検討も進めたい。

健康支援センターには様々な来訪者がいる。「悩む人（健康状態を含む）を助ける部署としての期待」「具体的な相談と対応に対する期待」というニーズからは、来訪者の受付時に、精神科医か、臨床心理士か、保健管理施設以外の窓口かニーズに適合した対応者につなぎ対応を行うことが、最も期待に応えることに繋がると考えた。インター

クの役割を、通常は窓口で一番に対応する看護保健スタッフが担っており、日常臨床経験から長く在籍するものほど、自ずと対応力が培われているが、特殊な事例や失敗した事項の情報の共有を重ねて、さらに技術を磨くことが重要であろう。当大学では各窓口からの連携について現在大きなトラブルは発生していないが、学内での周知については、入学時資料やHPなど案内に加えて、教員である医師や臨床心理士が、授業や学校行事内で直接学生に話す機会を増やし、啓発や健康支援センターの案内や具体的に提供できる支援の紹介を行うことで、誤解のない、より实际的な、身近な関係性を作っていくことができると考えた。

## 結語

学生が「健康支援センターのメンタルヘルス相談に何を期待するか」に関する自由記載コメントについて分析を行い、結果を検討し、学生のニーズについて考察した。得られた学生の意見を反映し、提供するサービスを改善したい。

本論文は、第41回全国大学メンタルヘルス学会総会で内容の一部を発表した。

本研究は 2018年度-2020年度科学研究費補助金（18K02570）を受け実施している。

## 文献

- 1) 田中生雅, 田口多恵, 杉野裕子 他. 保健環境センターの学生へのメンタルヘルス支援をニーズから考える —2013、2014年度大学生健康診断時アンケート調査結果より—. IRIS HEALTH 2014 ; Vol.13 : 9-12
- 2) 田中生雅. 大学生のメンタルヘルス状況と身近な相談環境に関する調査より. CAMPUS HEALTH 2020 ; 57巻 (2) : 142-147
- 3) 樋口耕一, 中村康則, 周景龍 他. KH Coderを用いた計量テキスト分析実践セミナー 初級編. 2018 ; 株式会社SCREENアドバンスシステムソリューションズ.

## Abstract

# Expectations for mental health consultations provided by university health service centers: analysis of questionnaire free responses

Mika Tanaka, MD., Yuji Tanaka, MD, PhD.

Health Service Center, Aichi University of Education

We conducted a questionnaire survey of university students to assess students' mental health status and the nature of mental health consultations available in their immediate environment. A questionnaire survey was conducted on 3,067 students receiving regular health examinations at University in 2019 who consented to participate in the survey. In this paper, we present the results for 138 students who provided free responses to a question on their expectations regarding mental health consultations provided by health service centers. Quantitative text analysis was performed on the entire text of the free responses using KHcoder. A total of 163 passages from 138 responses were analyzed. These phrases comprised six topics: (1) help for individuals experiencing anxiety, (2) public awareness, (3) guidelines for responding in the future, (4) the center's method of counseling, (5) one's health condition and worries, and (6) worries specific to university life. The extracted tokens and correspondence analysis revealed that male students tend to use abstract phrases such as "health," "environment," "worry," "difficulties," and "activity," while female students tend to use phrases related to concrete examples or services. In this study, we were able to identify keywords and issues related to students' expectation of university health services.

**Key words :** University students, Student support, Mental health, Quantitative text analysis

---

corresponding author: Dr.Mika Tanaka, Health Service Center, Aichi University of Education, 1 Hirosawa, Igaya-cho, Kariya, AICHI, 448-8542, Japan.